

平成29年度 事業報告書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

学校法人 奈良学園

＜ 目 次 ＞

I. はじめに	P. 1
II. 法人の概要	P. 2～5
1. 沿革	(P. 2)
2. 法人本部及び設置する学校の所在地	(P. 2)
3. 学校・学部・学科等の学生数等の状況	(P. 3)
4. 役員の状況	(P. 4)
5. 評議員の状況	(P. 4)
6. 専任教職員の状況	(P. 5)
7. 土地及び建物	(P. 5)
8. 全体地図（奈良学園キャンパス位置図）	(P. 5)
III. 事業の概要	P. 6～27
1. ハイライト	(P. 6～12)
（1）奈良学園大学 ー学部完成年度を迎えてー	(P. 6)
（2）奈良学園大学奈良文化女子短期大学部 ー学修成果：第41回フェスティバルー	(P. 7～8)
（3）奈良文化高等学校 ー地域で活躍・世界に発信ー	(P. 8～9)
（4）奈良学園中学校・高等学校 ーSSH校として活動を充実ー	(P. 9～10)
（5）奈良学園幼稚園・奈良学園小学校、 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校 ー繋がる学びと教育力ー	(P. 10～11)
（6）奈良文化幼稚園 ー「わんぱくの森」プロジェクト～遊びをとおして元気！未来行ー	(P. 11～12)
2. 設置校の主な事業と進捗状況	(P. 13～27)
（1）奈良学園大学	(P. 13～17)
（2）奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	(P. 17～20)
（3）奈良文化高等学校	(P. 20～22)
（4）奈良学園中学校・高等学校	(P. 22～24)
（5）奈良学園幼稚園・奈良学園小学校、 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校	(P. 24～26)
（6）奈良文化幼稚園	(P. 26～27)
IV. 財務の概要	P. 28～34
1. 最近の投資と財務の状況	(P. 28)
2. 平成29年度決算の概要	(P. 29～34)
（1）資金収支計算書の概要	(P. 29)
（2）活動区分資金収支計算書の概要	(P. 30)
（3）事業活動収支計算書の概要	(P. 31)
（4）貸借対照表の概要	(P. 32)
（5）平成29年度財産目録（概要）	(P. 33)
（6）監査報告書	(P. 34)

[奈良学園大学 教育研究活動等の状況](#) （大学のページに移動します）

[奈良学園大学奈良文化女子短期大学部 教育研究活動等の状況](#) （短期大学部のページに移動します）

I. はじめに

本学園では、経営環境が厳しさを増す中で、日本私立学校振興・共済事業団の指導と助言を受けつつ、「経営改善計画」を策定し、平成 23 年度以降、「教学改革計画」、「学生・生徒・児童・園児募集対策と学納金計画」、「施設等整備計画」等の各改善・改革に取り組んできた。

現在は平成 28 年度から平成 32 年度を対象とした「経営改善計画」に引き続き取り組んでいる。学園全体での計画取組みのさなか、平成 29 年度に各校園が取り組んだ事業は、以下に紹介した教学関係をはじめとして様々な成果をあげている。

【本書 P6～12「ハイライト」より】

奈良学園大学 「学部完成年度を迎えて」

奈良学園大学奈良文化女子短期大学部 「学修成果：第 41 回フェスティバル」

奈良文化高等学校 「地域で活躍・世界に発信」

奈良学園中学校・高等学校 「SSH 校として活動を充実」

奈良学園幼稚園・奈良学園小学校・奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校

「繋がる学びと教育力」

奈良文化幼稚園 「「わんぱくの森」プロジェクト～遊びをとおして元気！未来行」

平成 29 年度は、特に高等教育の整備拡充の一環として平成 27 年度から準備を進めていた保健医療学部の大学院看護学研究科申請と人間教育学部の定員増や教職課程認定申請（音楽・数学）が認可され、それぞれ今春（平成 30 年 4 月）のスタートを迎えた。また、保健医療学部ではリハビリテーション学科（理学療法学専攻、作業療法学専攻）の平成 31 年度設置を目指し、文部科学省への申請業務に取り組んできた。

学園は、今後も時代と共に変化する社会の要請に応えるべく、常に教育内容の充実を図り、地域社会さらには国際社会に貢献できる人材の育成に一層の努力を傾ける所存であり、変わらぬご支援を頂ければ幸いである。

学校法人 奈良学園

Ⅱ．法人の概要

1．沿革

昭和 36. 4	学校法人中和学園設置認可。
昭和 40. 1	奈良文化女子短期大学教養科及び奈良文化女子短期大学付属高等学校の設置認可。 教養科入学定員 100 人、付属高等学校入学定員 100 人、4 月 1 日開校。
昭和 42. 1	奈良文化女子短期大学付属幼稚園の設置認可。 総定員 180 人、4 月 1 日開園。
昭和 45. 4	学校法人奈良学園に名称変更を行う。
昭和 54. 1	奈良学園中学校、奈良学園高等学校設置認可。 中学校入学定員 90 人、高等学校入学定員 90 人、4 月 1 日開校。
昭和 58.12	奈良産業大学の設置認可。 経済学部経済学科入学定員 120 人、経営学科 120 人、昭和 59 年 4 月 1 日に開学。
平成 19. 4	奈良文化女子短期大学付属高等学校を奈良文化高等学校に校名変更。
平成 19. 6	法人本部を奈良県大和高田市東中 127 番地から奈良県奈良市中登美ヶ丘三丁目 15 番 1 号に移転。
平成 20. 3	奈良学園幼稚園、奈良学園小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校設置認可。 幼稚園総定員 155 人、4 月 1 日開園。 小学校入学定員 120 人、中学校入学定員 200 人、4 月 1 日開校。
平成 21. 3	奈良学園登美ヶ丘高等学校設置認可。 入学定員 225 人、4 月 1 日開校。
平成 26. 4	奈良産業大学を奈良学園大学に名称変更し、人間教育学部人間教育学科入学定員 120 人、保健医療学部看護学科入学定員 80 人を設置。 奈良文化女子短期大学を奈良学園大学奈良文化女子短期大学部に名称変更。 奈良文化女子短期大学付属幼稚園を奈良文化幼稚園に名称変更。
平成 29.10	法人本部を奈良県奈良市中登美ヶ丘三丁目 15 番 1 号から奈良県生駒郡三郷町立野北三丁目 12-1 に移転。
(平成 30. 4)	奈良学園大学大学院看護学研究科を設置。入学定員 8 人、4 月 1 日開校。

2．法人本部及び設置する学校の所在地

平成 30 年 3 月 31 日現在

学 校 名	住 所
法人本部	〒636-8503 奈良県生駒郡三郷町立野北 3-12-1
奈良学園大学	※1 〒636-8503 奈良県生駒郡三郷町立野北 3-12-1 ※2 〒631-8524 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	〒631-8523 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良文化高等学校	〒635-8530 奈良県大和高田市東中 127
奈良学園高等学校	〒639-1093 奈良県大和郡山市山田町 430
奈良学園中学校	〒639-1093 奈良県大和郡山市山田町 430
奈良学園登美ヶ丘高等学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園登美ヶ丘中学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園小学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園幼稚園	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良文化幼稚園	〒635-8530 奈良県大和高田市東中 127

注)※1 三郷キャンパス（人間教育学部）

※2 登美ヶ丘キャンパス（保健医療学部、大学院看護学研究科）

3. 学校・学部・学科等の学生数等の状況

平成 29 年 5 月 1 日現在

学校名	学部等	入学定員	収容定員	現員	備考
奈良学園大学 (奈良産業大学)	人間教育学部	120	480	455	H26.4 設置
	保健医療学部	80	320	341	H26.4 設置
	情報学部	0	0	6	H26.4 募集停止
	ビジネス学部	0	0	1	H26.4 募集停止
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	幼児教育学科	100	200	210	H29.4 募集停止
奈良文化高等学校	全日制課程 普通科	110 ^{※1}	330 ^{※2}	292	
	全日制課程 衛生看護科	80	240	246	
	全日制課程 衛生看護専攻科	80	160	148	
奈良学園高等学校	全日制課程 普通科	200 ^{※3}	600 ^{※4}	564	
奈良学園中学校		160 ^{※5}	480 ^{※6}	471	
奈良学園登美ヶ丘高等学校	全日制課程 普通科	120 ^{※7}	360 ^{※8}	355	
奈良学園登美ヶ丘中学校		160 ^{※9}	400 ^{※10}	447	
奈良学園小学校		90 ^{※11}	630 ^{※12}	386	
奈良学園幼稚園		40 ^{※13}	155 ^{※14}	130	
奈良文化幼稚園		60 ^{※14}	170 ^{※15}	197	

※1 募集人数。入学定員は 120 人。

※3 募集人数。入学定員は 240 人。

※5 募集人数。入学定員は 220 人。

※7 募集人数。入学定員は 225 人。

※9 募集人数。入学定員は 200 人。

※11 募集人数。入学定員は 120 人。

※13 募集人数。27 年度までは 35 人。

※15 募集人数。入学定員は 75 人。

※2 校則上の収容定員は 360 人。

※4 校則上の収容定員は 720 人。

※6 校則上の収容定員は 660 人。

※8 校則上の収容定員は 675 人。

※10 校則上の収容定員は 600 人。

※12 校則上の収容定員は 720 人。

※14 園則上の収容定員として 155 人。

※16 園則上の収容定員は 255 人。

4. 役員の状況（平成30年3月31日現在）

※理事定数8人以上12人以内【現員10人】 監事定数2人又は3人【現員2人】

理事長（常勤）	西川 彭	学園長
理事（常勤）	辻 毅一郎	学校長の互選による
理事（常勤）	吉田 明史	学校長の互選による
理事（常勤）	山田 勝美	学校長の互選による
理事（常勤）	松尾 孝司	学校長の互選による
理事（常勤）	古川 謙二	学校長の互選による
理事（常勤）	青木 徳康	評議員会の選任による
理事（常勤）	上嶋 丈一	評議員会の選任による
理事（非常勤）	甘利 治夫	学識経験者
理事（非常勤）	中本 勝	学識経験者
監事（常勤）	松田 親典	
監事（非常勤）	村田 智之	

注) 平成30年3月31日退任

理事（常勤） 青木 徳康

理事（常勤） 上嶋 丈一

注) 平成30年4月1日就任

理事（常勤） 金山 憲正 評議員会の選任

理事（常勤） 植村 明博 評議員会の選任

理事（常勤） 伊瀬 敏史 学識経験者

5. 評議員の状況（平成30年3月31日現在）

※評議員定数21人以上25人以内【現員24人】

法人職員	仁後公幸	学園卒業生	川戸昭人	学識経験者	朝廣佳子
	上田全克		光安寿一		高橋裕子
	北條哲夫		池田順子		政池 明
	上原朋之		櫻井秀子		尾来孝志
	梅田真寿美		小鶴和美		田村雅宥
	上嶋丈一		山口小代美		西川 彭
	角田道代		上杉圭史		菊池 攻
	青木徳康		奥村大明		新納京子

注) 平成30年3月31日退任

評議員 上田 全克

評議員 北條 哲夫

評議員 上嶋 丈一

評議員 青木 徳康

注) 平成30年4月1日就任

評議員 枅田 昌子

評議員 滝田 雅人

評議員 金山 憲正

評議員 植村 明博

6. 専任教職員の状況（平成 29 年 5 月 1 日現在）

※学長・副学長・校長・園長・副校長・教頭は除く

校 名	教 授	准 教授	講師 (大学・短大)	助 教	助 手	教 諭	助 教諭	常勤講師 (幼・小・中・高)	職 員	計
奈良学園大学 (奈良産業大学)	24	16	9	6	9	0	0	0	52	116
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部	5	2	3	0	0	0	0	0	10	20
奈良文化高等学校	0	0	0	0	0	41	0	5	11	57
奈良学園高等学校	0	0	0	0	0	33	0	0	3	36
奈良学園中学校	0	0	0	0	0	26	0	0	2	28
奈良学園登美ヶ丘高等学校	0	0	0	0	0	21	0	1	2	24
奈良学園登美ヶ丘中学校	0	0	0	0	0	24	0	2	1	27
奈良学園小学校	0	0	0	0	0	27	0	4	0	31
奈良学園幼稚園	0	0	0	0	0	8	0	2	1	11
奈良文化幼稚園	0	0	0	0	0	7	0	9	1	17
法人部門	0	0	0	0	0	0	0	0	22	22
計	29	18	12	6	9	187	0	23	105	389

7. 土地及び建物（平成 29 年 5 月 1 日現在。含、志賀直哉旧居）

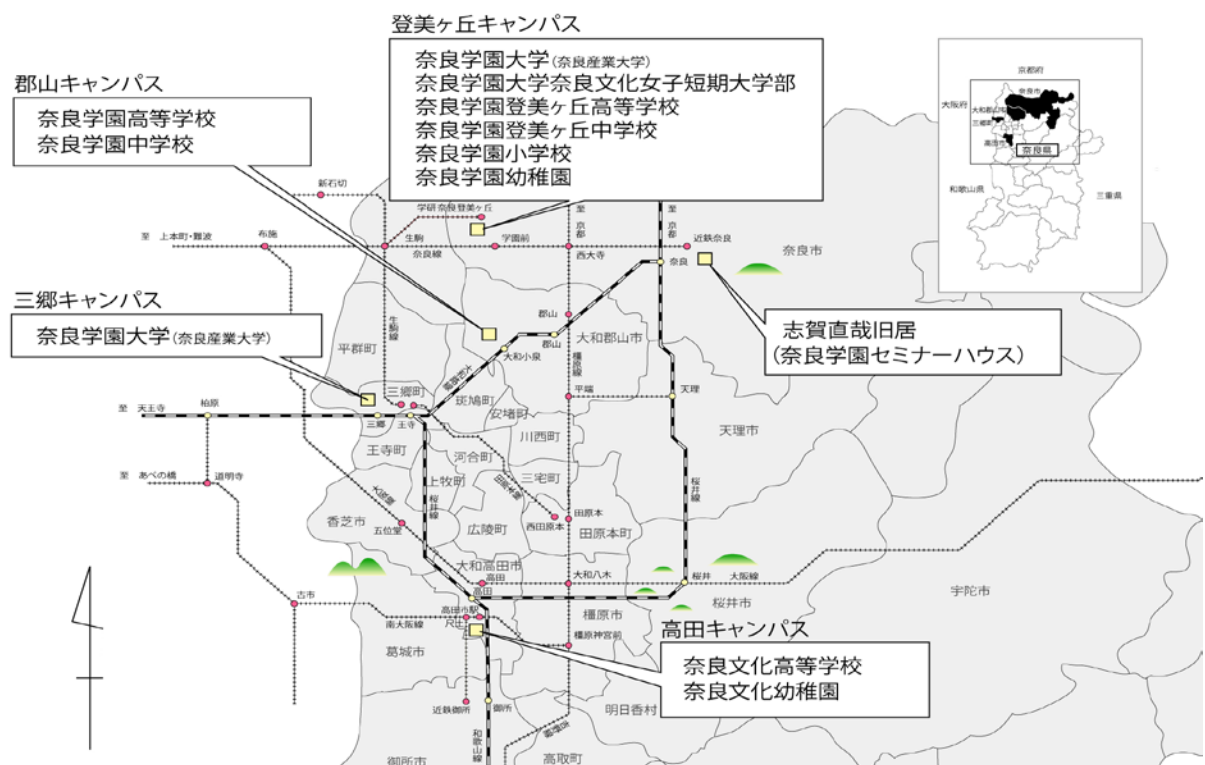
【キャンパス毎の土地面積】

三郷キャンパス (奈良学園大学 (奈良産業大学))	203,745 m ²
高田キャンパス (奈良文化高等学校・奈良文化幼稚園)	79,261 m ²
郡山キャンパス (奈良学園中学校・高等学校)	96,037 m ²
登美ヶ丘キャンパス (奈良学園大学 (奈良産業大学) 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部・奈良学園登美ヶ丘高等学校・奈良学園登美ヶ丘中学校・奈良学園小学校・奈良学園幼稚園)	95,427 m ²
(志賀直哉旧居 (奈良学園セミナーハウス))	1,438 m ²

【キャンパス毎の建物面積】

三郷キャンパス (奈良学園大学 (奈良産業大学))	32,715 m ²
高田キャンパス (奈良文化高等学校・奈良文化幼稚園)	25,572 m ²
郡山キャンパス (奈良学園中学校・高等学校)	17,446 m ²
登美ヶ丘キャンパス (奈良学園大学 (奈良産業大学)・奈良学園大学奈良文化女子短期大学部・奈良学園登美ヶ丘高等学校・奈良学園登美ヶ丘中学校・奈良学園小学校・奈良学園幼稚園)	46,325 m ²
(志賀直哉旧居 (奈良学園セミナーハウス))	421 m ²

8. 全体地図（奈良学園キャンパス位置図 平成 30 年 3 月 31 日現在）



Ⅲ. 事業の概要

1. ハイライト

(1) 奈良学園大学 一学部完成年度を迎えて―

人間教育学部及び保健医療学部を設置して完成年度を迎えた本年は、結果を出す年となった。

人間教育学部は、一期生が難関とされる全国公立学校の教員採用試験に臨み、一次試験突破者が66名、最終合格者が21名という素晴らしい結果を得た。教員採用が難化する中、新設大学として、学校現場での体験を通じた学び、人間教育実践力開発演習などによるコミュニケーション力の強化、学校現場経験が豊かな教員による実践的授業等、本学教育の特徴である3つの力（豊かな人間力、高度な実践力、柔軟な教育力）の育成、さらに課外の教師塾、Naragaku GTといった教員採用試験対策講座の開設と、学生自らが努力を継続した結果の成果だと考える。残念ながら採用されなかった学生についても、私立学校または公立の常勤講師の立場で教鞭を執ることとなった。さらに、教員以外の進路を希望した学生についても、17名が一部上場企業に内定を得て内10名が就職、大学院進学1名を加え卒業生97名で就職を希望した者全員が進路を決定した。このうち2名は、プロ野球ドラフト選択会議で指名され、プロ野球球団に所属することとなった。

保健医療学部は、一期生66名が看護師国家試験を受験し64名の合格、8名が助産師国家試験を受験し全員合格、17名が保健師国家試験を受験し10名の合格という結果を得た。学生たちは、看護学各領域の専門分野の学びを深めるとともに、大学学士号を授与される者としての多彩な授業科目による知識と技術を修得し、臨地実習で実践力を養うのはもちろん、国家試験に備え対策を本格化させ、継続的に模擬試験を受験するなど実力を確認してきた。全員の合格は果たせなかったが、次年度卒業生に加え今回の不合格となった者も、継続して万全の体制で国家試験対策を実施し、大学が一丸となって学生を支援していく。

また、10月に実地調査を受けた高等教育評価機構による認証評価では、3月に大学評価基準に適合していると認定を得た。今後も文部科学省が認証評価制度の目的としている「大学等の教育研究水準の向上に資する」ことを十分に理解し、さらなる教育研究活動の充実、発展に取り組みたい。



3月25日 第1回卒業証書・学位記授与式



10月26日 プロ野球ドラフト会議

(2) 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

— 学修成果：第 41 回 フェスティバル —

毎年 12 月に幼児教育学科フェスティバルを実施しているが、平成 29 年度で 41 回目となった。フェスティバルは全学的行事に位置付けられており、授業や研究活動の成果を発表する場とし、年度の初めに学生によるフェスティバル実行委員会を組織し、委員会で選出された実行委員長を中心に企画・運営を行った。

今年度は、全員が参加し、72 名の卒業年次生が発表を受け持ち、130 名の下級生が、プログラム作成、アナウンス、舞台・音響照明等の係及び幕あい発表を行ったが、互いに協力し合い、質の向上に努めることができた。下記がプログラムである。

第41回 フェスティバル プログラム H29年12月2日(土)				
順番	時刻	クラス	演目	内容
1	9:15	フェスティバル副委員長	始まりのことば	
2	9:18	オープニング	楽器演奏	生命の奇跡 クリスマス・メドレー
3	9:28	中登美こども園	鼓隊演奏	コミカル☆パレード
4	9:40	Ⅲ-D	合唱	花は咲く、夢をかなえてドラえもんなど
5	9:55	奈良学園幼稚園全園児	フラッグ・鼓隊	宝島、明日への扉
6	10:25	Ⅲ-C	オペレッタ	森のしたてやさん
7	10:50	奈良文化幼稚園年長児口	和太鼓演奏	祝太鼓 あ・うん
8	11:10	社会的養護と遊びゼミ	劇	おむすびころりん
8.5	11:30	Ⅱ-D	幕間	ブンバボン体操
9	11:35	オペレッタゼミ	オペレッタ	アナと雪の女王
9.5	11:55	Ⅱ-C	幕間	エビカニクス
10	12:00	Ⅱ-A&Ⅱ-CD選抜	器楽合奏	アンパンマンのマーチ、となりのトトロ
11	12:15	エンディング	合唱	赤鼻のトナカイ
12	12:20	フェスティバル委員長	終わりのことば	

今年度の参観数は 493 名（記帳人数）と、ここ数年間増加傾向にあり、法人内の幼稚園だけでなく近隣の保育園からの参加も得て、本学の公開の行事として地域に定着したと考えられる。また、平成 29 年度は初めて奈良学園大学人間教育学部の学生が参観したが、一緒に歌ったり踊ったりすることにも参加し、同じ教育を目指す者として、多くのことを学んだ様子であった。

参観者のアンケートでは、「年々発表内容の質が向上している」、「表現力が素晴らしい」、などの感想が見られた。本学のディプロマポリシーの項目に「表現力を身に付ける」があるが、このことに取り組んできた成果がこのフェスティバルで実践できたととらえている。また、学生全員が、「見ていただく」という意識で行動したことが、表現力向上の大きな要

困ともなっている。

★ 観客アンケートまとめ

「一般・学園関係者」

- ・子どもの心に届く良い演出だと感じた。 ・司会がとても上手だった。
- ・学生さんのきびきびした動きが心地よかった。 ・子どもたちが楽しめるように考えられていた。
- ・アナと雪の女王のクオリティーがすごかった。 ・日頃の取り組みの積み重ねが伝わってきた。
- ・年々充実し、楽しいものになってきた。学生さんがそれぞれの力を発揮する姿が良かった。

「奈良学園大学人間教育学部学生感想」

- ・短大生の表現力に感激した。 ・様々の発表があり楽しめ、表現の仕方というものを学んだ。
- ・今までやってきた表現活動は表現活動ではなかったと思った。 ・また来たいと思えるものだった。
- ・たくさんの方が見に来られて、盛り上がりを感じた。 ・司会がはなばなく上手だった。

12 月末には学生委員による写真入りフェスティバル新聞も発行され、学生は更に達成感を感じることができた。

次年度は、いよいよ本学にとって最後のフェスティバルとなるが、更に質の向上を目指し、学生、教職員共に準備を行い、奈良学園大学にも今年同様の参加をお願いし、また本学関係者にも招待状を送るなどして、会の最後の形を整えたい。

(3) 奈良文化高等学校 ～地域で活躍・世界に発信～

地域に必要とされる学校、地域に貢献できる学校を目指して 29 年度も地域交流を推進した。これは生徒が学習成果を活かして校外で活躍する舞台の創出でもある。

一年の幕開けは春の橿原神宮神武祭スーパーカーパレードである。本校は神宮参道からパレードして来た車列のゴールであり、生徒がこれを迎える。29 年は大雨に見舞われたが、安全運転で本校に到達したスーパーカーに向かって、ずぶ濡れの本校生が手を振って歓迎する姿は「清く、優しく、逞しく」の校訓そのままに、関係者の皆さんから心に残ったとお言葉を頂いた。

恒例となっている 5 月の「みんな de お祭り（県社会教育センター）」、6 月の「おもしろ歴史フェスティバル（明日香石舞台）」、8 月の「なら燈花会ファッションショー（県新公会堂）」「夏休みこども博（近鉄百貨店）」、11 月の「夢フェスタ in かつらぎ（當麻寺）」「未来は元気フェスティバル（大和高田市）」「奈良県大芸術祭＜万葉浪漫＞（藤原京跡）」、12 月の「奈良マラソン救護班（奈良市）」に加え、29 年度は「道の駅かつらぎ」や葛城税務署での就労体験を、学校のキャリア教育におけるインターンシップと位置付けて実施。高い評価を頂いて 30 年度も継続されることとなった。また 2 月の JA キッズクラブ「奈良県産イチゴロールケーキ作り体験」において本校食文化コース生が指導補

助員を務め、親子連れの楽しいケーキ作りのお手伝いをした。

こうした生徒の活躍を積極的に発信しているのも本校の特色である。29 年度も各種メディアの取材や収録が相次いだ。月刊誌「看護学生」（メジカルフレンド社）1 月号の巻頭に本校衛生看護科の特集記事が掲載されたが、看護学生には社会人や主婦も珍しくない中、高校生ながら確固とした目標を持って邁進する本校生の姿勢が評価された。

特筆すべきはInstagramから意見交換の申し出があったことである。本校の公式アカウントは、生徒が広報企画室の教員と一緒に運営しているが、これがInstagram本体の目に留まり、10 月にアメリカから製品部門のトップ（Chief Product Officer）一行が本校を訪問。生徒らと座談会形式でざっくばらんな意見交換を行なった。この際に本校生から提案された「撮影後 24 時間以上経過した動画をストーリーズにアップロードする」と「投稿された画像をデバイス内にダウンロードする」機能は、その後Instagramのアプリに実装された。

地域振興と世界発信をステージに、座学から実践に昇華（＝実学）の一年となった。



スーパーカーパレードを歓迎



Instagramと意見交換

（４）奈良学園中学校・高等学校 ―SSH 校として活動を充実―

平成 28 年度で本校としては第 1 期の SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定期間が終了したが、平成 29 年度は文部科学省から SSH 経過措置校に指定された。当事業を高 1～高 3 の 3 学年で実施し、2 月にはなら 100 年会館で SSH 研究発表会を実施した。ベトナムでの海外サイエンス研修は、SS 発展コースに所属する生徒 12 名全員が参加した。

また、SS 研究チームが日本地質学会高校生ポスター発表で「優秀賞」を、日本進化学会高校生ポスター発表では「奨励賞」を受賞した。

本年度の主な活動は次のとおりである。

- ① 高校 1 年生対象の学外サイエンス学習（京大、神戸大、大教大、大阪府水産技術センター、橿原考古学研究所等々での見学や講義のべ 23 回）

- ② SS 公開講座（著名な方を招聘して講座を年 3 回実施）
 - ③ SS 出前講義（大阪教育大等の先生が本校で年 6 回講義）
 - ④ ベトナム海外サイエンス研修（12 名の生徒が、12 月にベトナムの高校と大学を訪れ、研修と交流。現地の農村ナムソン村やドンラム村、ホン川河口、ベトナム教育訓練省でも研修。）
 - ⑤ SS 国内研修の実施（八重山諸島、兵庫県豊岡市、東京海洋大、阪大等 7 回実施）
 - ⑥ SS 研究チームをはじめとする、科学系部活動等の充実
 - ⑦ 地域小学生への発信事業「奈良学塾」の実施（年 2 回実施）
- なお、平成 30 年度からの第 2 期 SSH の申請を行った結果、採択された。



SS 国内研修（八重山諸島）



海外サイエンス研修（グエンシュ高校との交流）

（５）登美ヶ丘キャンパス（奈良学園幼稚園・小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校） 一繋がる学びと教育力一

平成 29 年度は、小学校において新校長を迎え、さらに教頭の複数配置（幼小連携担当・小中連携担当）を配置し、校種間及び PP・P・M・Y 課程間の連携を強化した。

平成 29 年度における教育の特色としては、前年度に設立した幼稚園児及び小学校児童を対象の「ならとみサッカースクール」に、外部からの指導者（セレッソ大阪と提携）を導入し、より本格的な活動に取り組むことができたことが挙げられる。また、小学校においては、前年度から検討準備を続けてきた「放課後児童預かり『きらっ登』」を開設した。一時利用及び継続利用を含めて 35 名の登録者があった。これによって共働き家庭の保護者の要望に応えることができた。

異学齢交流活動においては、例年同様、5 月に「Y（中高）スポーツフェスティバル」、6 月に「M（小中）体育大会」、9 月に「MY（小中高）尚志祭（文化祭）」、2 月に「PP・P（幼小）尚志祭（学習発表会）」、10 月には「合同運動会（幼小中高）」を開催し、幼小連携・小中連携、さらには幼稚園から高校生までの連携を行った。

国際交流活動においては、5月にM2（小6）ハワイ宿泊学習、6月にY3（高2）オーストラリア語学研修の継続に加えて、6月に中国の華東師範大附属中学国際科生徒の訪問（高校）、8月に幼稚園教員が中国南京市幼稚園に訪問、9月にはオーストラリアの連携校生徒のホームステイ受入、2月に小学校で帰国子女の一時受け入れなど、幼小中高に互って交流を進めた。体験学習・キャリア教育活動においては、小学校での地域の方による講演（吉野紙漉き・春日大社宮司）やサイエンス講座、プログラミング教育、中学校でのキャリアリサーチ（企業研究所訪問）やキャリアトーク（保護者による職業案内）に取り組み、児童生徒の意識向上を図った。



小学校でのプログラミング教育



中学校でのキャリアリサーチ講座

（6）奈良文化幼稚園

―「わんぱくの森」プロジェクト～遊びをとおして元気！未来行～―

創立50周年記念事業として始めた「わんぱくの森プロジェクト」も3年目を迎えた。春には学園発祥の地である磯野校地から高さ7mのくすのきを園庭に移植し、それを中心に大きなすべりだいが完成した。1年前から移植準備をし、「わんぱくの森」で堂々と子ども達の遊びを見守るように立つくすのき・・・学園の歴史、また「わんぱくの森」のシンボルができたことに感無量である。この「くすのきすべりだい」からは、日々子ども達の明るい笑い声が響いている。

そして、心も体も頭もフル回転させて遊び込める園庭をめざし、園庭中心部の整備を進めた。ターザンケーブル、トランポリン、ゴーカートコースが新たに設置され、子ども達の動線整理もでき、挑戦したり、協力したり、失敗したり・・・子ども達の遊びが深まった。

さらに、今年度はこの園庭づくりに保護者も参画し、協働体制の一步目を踏み出したことは大きな成果としてあげたい。保護者と教職員が共に汗を流し、隠れ家や二段式砂場、ガチャポンプ水路変更器、収納棚等を作成した。子ども達の活動に期待を寄せ、楽しみ、見守る・・・大人達にとっても‘遊び’の持つ意味を考え、知る良い機会となり、子ども達の育ちと共にみんなで「わんぱくの森」を育てていきたいという意識が芽生え

た。

教育活動として、奈良文化高等学校子ども教育コースとの連携がさらに深まったこと、奈良学園大学人間教育学部の授業フィールドとして継続的な学生の受け入れを行ったことは、互いの学びに繋がったと考えている。子ども達にとって大きな見守りの中包まれて育っている実感を持つ経験となり、教員にとっても実践を振り返り、スキルアップする良い機会となった。



「くすのきすべりだい」で笑顔いっぱい



高校生と一緒に桑の実摘み

2. 設置校の主な事業と進捗状況

(1) 奈良学園大学（奈良産業大学）

① 教育活動

- ア) ビジネス学部は、年度末に最後の卒業生を輩出し、平成 30 年 3 月 31 日付けで学部廃止を決定し文部科学省に届け出た。
- イ) 情報学部は、前期末に最後の卒業生を輩出し、平成 29 年 9 月 30 日付けで学部廃止を決定し文部科学省に届け出た。
- ウ) 人間教育学部は、完成年度を迎え、教育課程の精査を行うと共に、中等の数学及び音楽の教員養成課程を申請し認可を得た。
- エ) 保健医療学部は、大学院看護学研究科（修士課程）を申請し、認可を得た。また、昨年度に文部科学省が定めた看護実践能力修得のための新たな学修目標に沿ってカリキュラムを改定し、文部科学省に申請した。さらに、平成 31 年度の開設を予定してリハビリテーション学科設置認可の申請書を文部科学省に提出し受理された。
- オ) 教員採用試験対策では、選抜者による「naragaku GT」と「教師塾」の成果により、延べ 21 名の都道府県小学校教員採用試験合格者を得た。
- カ) 保健医療学部では、国家試験対策模試が 7 回実施(4 年次生対象:5/20、8/11、10/14、12/1、1/11、3 年次生対象:8/22、3/3)され、看護師 64 名／66 名(97%)、保健師 10 名／17 名(58.8%)、助産師 8 名／8 名(100%)の結果を得た。

② 研究活動

- ア) 奈良学園大学紀要を 2 集発行した。第 7 集（平成 29 年 9 月発行）では 19 編、第 8 集（平成 30 年 3 月発行）では 17 編の論文等を発表した。
- イ) F D 活動では、講演会、研究会、公開授業、授業改善シート及び授業評価アンケートも継続実施した。講演会では、薬師寺の大谷徹煇副執事長をお招きして「幸せの条件～心のしくみ～」(9/7)、学生相談室カウンセラー・臨床心理士管徹先生による「大学における相談活動の意義と現状」(3/14 午前)、「保健医療学部における相談活動から見てきた学生の現状と課題」(3/14 午後)、奈良県大学連合主催の FD・SD 講演会を本学で株式会社ミライロ講師・日本ユニバーサルマナー協会理事の岸田ひろ実先生をお迎えして「テーマ:現代に求められるユニバーサルデザイン」(3/2)を実施した。学部実施の研究会は、人間教育学部は「7/7・発表者:西江助教、太田助教」・「12/1・発表者:善野教授、山田講師」、保健医療学部は「8/23・発表者:田中准教授、嶋田准教授、服部非常勤講師」を実施した。
- ウ) 科学研究費については、27 件（内、研究代表 9 件）が採用された。（昨年度 31 件(内、研究代表 13 件)）

③ 学生支援

- ア) 新入生学外宿泊研修を、人間教育学部は4月5・6日（参加128名、欠席2名）に、保健医療学部は4月7日・8日（参加86名、欠席2名）に実施した。
- イ) 聴覚障がいを持つ学生への支援では、チーム支援会議を組織し、前期から授業参観を行い、ノートテイクを行う授業科目を選定して、奈良県聴覚障害者支援センターとTA学生（教員補助必須）により研修と実施を行った。また、新たに「音声認識機器（UDトーク）」を導入した。
- ウ) 学生の意識及び生活の実態に関する調査について、3年に一度の調査実施年度に当たることから、アンケート内容を見直し、人間教育学部（11/6～30）、保健医療学部（10/24～11/30）で実施した。（前回調査は平成26年度）

④ キャリア支援

- ア) 卒業生全体の就職決定率は、人間教育学部98.5%。保健医療学部は、国家試験不合格者が2名で最終の就職率は96.9%。ビジネス学部、情報学部の過年次生（全員卒業）5名のうち就職が決まった者は1名であった。全学部とも、卒業後も可能な限り就職支援を継続する。
- イ) 三郷キャンパスでは、人間教育学部及びビジネス学部、情報学部の過年次生の民間企業就職希望学生に対し、個別相談、情報提供を適切に行った。登美ヶ丘キャンパスでは、保健医療学部では民間企業就職希望者はいなかったが、求人ナビシステムにより病院等の求人情報を随時提供している。
- ウ) 資格試験講座では、三郷キャンパスにおいて、秘書技能検定2級・3級とビジネス文書検定3級の講座を実施し、どちらの検定とも、受験者の合格率が全国平均を上回った。

⑤ 社会連携・地域貢献

- ア) 王寺町と共催の「リーベルカレッジ」を3回開催し、延べ404名の参加を得た。「登美ヶ丘カレッジ」は1回となり、15名の受講であった。
- イ) けいはんな学研都市7大学連携「市民公開講座2017」は、関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）に立地している6大学（奈良先端科学技術大学院大学、同志社大学、同志社女子大学、大阪電気通信大学、関西外国語大学、大阪国際大学）の共同企画であり、本年度は、奈良先端科学技術大学院大学、同志社大学、同志社女子大学、大阪電気通信大学、関西外国語大学、京都府立大学を加え、奈良学園大学の構成により国立国会図書館関西館で開催された。本学は「サイバー・マインドフルネス（瞑想）～バイオフィードバックの世界～」と題し、社会連携センター長保健医療学部辻下教授による講座を提供した。受講者は約200名と盛況であった。

- ウ) 三郷町で結成された、(産) 三郷町商工会、(官) 三郷町役場、(学) 奈良学園大学及び奈良県立西和清陵高等学校の4団体で構成する「三郷町産官学地域活性化連絡協議会」では、その一員として各団体と連携し、事業を展開した。本年度は、「ひまわり植生事業」「町民文化祭出展」「イルミネーション事業」「まちづくり事業」と4事業を実施した。
- エ) 大学キャンパス開放イベントを継続実施した。お花見イベント、七夕祭り、夏休み花火イベント、学生ボランティアサークルによるクリスマスイベントでは、地域の多くの方々の参加を得た。なお、七夕祭りのイベントの一つとして実施した「流しそうめん大会 7/8」は、三郷町商工会青年部、奈良県三輪そうめん工業協同組合等の協力による全長200メートルの流しそうめんイベントで530人の地域の方々が集まった。
- オ) 奈良重心道アスレティックスクラブボランティア指導(全9回・信貴山グラウンド)、三郷小学校・三郷北小学校 陸上競技指導(平成29年7月21日、24日(月)～26日(水)、三郷北小学校マラソン大会ボランティア(平成29年12月1日)、奈良マラソンボランティア(平成29年12月9日、10日)、王寺町「和」マラソン大会(平成29年12月23日)、第71回金剛葛城山下一周駅伝大会(平成30年2月4日)、龍田古道整備・清掃ボランティア(平成30年2月22日)、三郷町 大和川クリーンキャンペーン(平成30年3月4日)でボランティア活動を行った。
- カ) 平成29年10月1日(日) 第三回目となる奈良学園大学シンポジウムを開催した。「社会を生き抜く力を育むー未来を拓く教育とはー」をテーマにし、基調講演に昭和女子大学理事長・総長である坂東眞理子氏を招いた。また、パネルディスカッションは、坂東眞理子氏、柳田俊雄氏(情報通信研究機構/大阪大学脳情報通信融合研究センター長)、中室雄俊氏(奈良市教育長)を招き、本学教職センター長の森一弘を加えて実施した。参加人数は、大学の関係者を含め、合計で330名であった。

⑥ 国際交流

- ア) 友好協定締結校から特別聴講留学生として蘇州科技大学9名、黒龍江東方学院2名、長江大学8名(内半期4名)、三峡大学1名(半期)、計20名を受け入れた。また、夏季短期研修留学生として台湾屏東科技大学11名、青島理工大学5名、三峡大学8名、蘇州科技大学12名、カンボジア・メコン大学2名、タイ・スィーパトゥム大学2名、香港城市大学専上学院6名、ダナン大学2名、計48名を受け入れた。
- イ) 青島理工大学(中国青島市)へ5名(人間教育学部1名、保健医療学部4名)を語学研修留学(10日間)に派遣した。
- ウ) 東アジア文化交流研修(2泊3日)には、東亜大学校(韓国釜山市)の協

力を受けて本学の学生 8 名（人間教育学部 6 名、保健医療学部 2 名）及び特別聴講生を派遣した。

エ）カンボジア短期研修（11 日間）では、カンボジア・メコン大学（カンボジア）の協力を受けて本学の学生 9 名（人間教育学部）が参加した。

オ）今年初めて実施したハワイ看護研修は、ハワイ州立大学の研修に本学の学生 3 名（保健医療学部）が参加した。

カ）カナダバンクーバー教育研修は、トリニティ・ウェスタン大学の研修に本学の学生 7 名（人間教育学部）が参加した。（人間教育学部主催）

⑦ スポーツ振興

ア）硬式野球部は、春季及び秋季のリーグ戦でそれぞれ第 2 位となり、全日本大学野球選手権大会には進むことができなかった。

プロ野球ドラフト選手選択会議で宮本丈（内野手）がヤクルトスワローズから 6 位指名、村上海斗（外野手）が読売巨人軍（ジャイアンツ）から 7 位指名を受けて入団した。

イ）マーチングバンド部は、出演テーマ「追跡者 P l a n A」で第 39 回マーチングバンド関西大会に出場し、一般の部で金賞を受賞、全国大会への出場権を得た。「第 45 回マーチングバンド全国大会」（さいたまスーパーアリーナ）一般の部では、7 位となり 2 年連続で銀賞を受賞した。

ウ）女子バスケットボール部は、リーグ戦の結果が最終順位 7 位となり、全日本大学バスケットボール選手権大会出場権を獲得することが叶わなかった。

エ）第 3 回奈良学園大学ベースボールクリニックを 12 月 3 日に開催し、卒業生の庄司力也投手（パナソニック）、鈴木佳祐投手（パナソニック）、吉田利一捕手（中日ドラゴンズブルペン捕手）を特別講師に迎え、中学生約 80 名を対象に実施した。また、例年通り 12 月 23 日から 27 日には、奈良県内の中高生を対象に剣道教室を開催した。

⑧ 環境整備

ア）マーチングバンド部の練習場・楽器庫を建築した。（9 月 13 日地鎮祭・3 月 9 日完成披露）

⑨ 学生募集

ア）「人間教育学部」「保健医療学部」の 5 年目の学生募集に注力した。高校等の教員に対して、県内・近畿圏を中心に延べ 2,653 校の高校訪問、延べ 2,897 校の塾・予備校訪問を行い、学部教育に対する理解の深化を図った。また、受験生に対しては、会場ガイダンス 109 会場、校内ガイダンス 230 校に参加し、説明を行った。また、オープンキャンパスは人間教育学部、保健医療学部とも 5 回開催し、延べ 677 名（内訳：人間教育学部 249 名・

保健医療学部 428 名)の高校生の参加を得て、本学の特長を伝えた。オープンキャンパス全参加者は、1,032 名(内訳:人間教育学部 361 名・保健医療学部 671 名)であった。

イ) 人間教育学部は、志願者数 342 名となり、135 名の新入生を迎えることとなった。また、編入学は 4 名であった。

ウ) 保健医療学部は、志願者数 1,080 名となり、87 名の新入生を迎えることとなった。大学院看護学研究科は、6 名の新入生を迎えることとなった。

(2) 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

平成 28 年度の第三者評価においては、「シラバス等に記載の目標に対して定期的に学生自身に自己評価をさせる取組が有効な試みである」との高い評価とともに適格認定を得た。前年度に引き続き経営改善を図り教学改革を推進するため、ハード面での環境整備、ソフト面でのディプロマポリシーの到達度評価(レベルチェック)の実施、研究活動の充実、大学機能を生かした社会連携・地域貢献等に取り組んだ。

①教育活動

3 つのポリシーに基づき、実習につながる実践力と基礎学力の一層の向上を図るため、以下のような教育活動を展開し、教育内容の充実を図った。

ア) 全ての科目において、獲得を目指す力としてレベル 1～3 の到達度を設けたシラバスで授業を展開した。前・後期末には、学生自身が「manaba folio」(ポートフォリオシステム)による自己評価に取り組み、4 観点でみたレベル 2 以上の達成率は、「1 知識・理解」93%(前期 81%)、「2 技能・表現」88%(前期 90%)、「3 思考・判断」91%(前期 85%)、「4 関心・意欲・態度」89%(前期 86%)であった。

また、学生の主体的な学習習慣の確立を図るため、授業時間外学習の定着にも取り組んだ。シラバスには明確な授業時間外学習の内容と目安となる学習時間を明記するなどの工夫をし、併せて「全くしない」学生の割合を 0%になる目標設定をした。本年度後期の授業アンケート結果では、これまで全学年平均で 22%だった数値も 15%にまで改善できた。

イ) 公開授業については、本年度前期に 1 回設定し、アクティブラーニングの視点から授業の工夫に取り組んだ。特に本年度は、学生が自ら調べ考えたことを授業の中で発表する活動を全授業時間の 1 割以上となるように、シラバスにも明記した。調査のため抽出した 17 授業では、80%が 1 コマ以内の時間を、20%が 1 コマ以上の時間を発表する活動として取り入れていた。

ウ) 授業方法の改善に資するため、FD 研修会を 7 月と 11 月の 2 回開催した。公開授業の報告、実習を終えての成果と課題の報告、リメディアル教育の取組結果、シラバスのレベルチェック結果及び授業アンケート結果など、

学生の実態が伺える各種の資料をもとに協議を深めることができた。

また1月に、学科担当で「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」の改訂に伴う研修会を非常勤講師も含め実施し、認識を深めることができた。

- エ) リメディアル教育の実施については、本学としての基本的な考え方をもとに、①研究室付近の学習スペースの環境を整備し効果的な活用を促すこと、②ミュージックラボ1教室の常時開放を行い学生のピアノ練習への意欲向上を図ること、③AV機器や参考図書の設置や幼稚園児の作品展示などを行うこと、④壁面を利用した学生の作品展示、植物展示等の教育環境整備を充実させること、⑤学生からの相談に教員が積極的に応じることなど、多様な方法を取り入れた取組を行うことができた。学生へのアンケート結果でも、1回以上の学習スペースの活用者が89%に上った。

- オ) 実習担当者会議を年間8回開催し、受入園・施設の確保や実習内容の充実を図るための受入先との連携など、実習体制の強化に努めた。各実習終了段階で成果と課題を総括し、その結果を学科会議や教授会、FD研修会等で報告した。園からの実習評価は全般的に年々高くなってきた。また、実習園への訪問指導については、全教職員が共通理解を図りながら実施し、実習園と連絡を密にしながら学生支援に効果を上げることができた。

なお、本年度も大和郡山市・生駒市・天理市・田原本町の4市町との間で実習先受入の連携協定を継続しているほか、奈良市・橿原市・宇陀市の3市との受入協力も引き続き得られた。実習参加基準のGPAをはじめとする内規運用に基づく実習延期学生の指導については、学科会議で内容や方法を検討し、当該学生には実習に参加できるための基礎的知識、ピアノ奏法、実習日誌の記載能力の向上を図るため、個別の課題に取り組ませた。特に本年度からつどいの広場やちびっこ広場で子どもや保護者と触れ合える体験メニューを導入し、実習参加への意欲と自信をもたせることができた。

- カ) PROGテストは一昨年度の試行を経て、昨年度、本年度と本格的に実施してきた。学生には入学時と卒業時に取り組みせ、資質・能力への自己開発の実態についてその都度分析した。個別結果はクラスアドバイザーが管理し、学生全体のテスト結果や傾向については全教員で共有し活用した。

- キ) 子育て支援事業への学生参加を推進するため、つどいの広場やちびっこ広場へ1回生から授業の一環として参加できるようにシラバスに組み込んだ。授業での全員参加と自主的参加を合わせると、参加率は昨年度に比べて156%に上る。参加した学生からは「子どもと触れ合えてよかった」「子どもに対する興味や愛情が強くなった」といった感想とともに、学生の98%が実習や進路に大いに生かされたと評価しており、子育て支援活動と

教育との接続に成果が認められた。

- ク) 学生の実践力を高めるための全教員による一致した指導の結果、フェスティバル及び子ども学ゼミでの発表力、参加意欲や取組態度については、教職員や外部参加者からも高い評価を得ることができ、実践力向上の面で大きな成果がみられた。
- ケ) 社会の子育て状況の変化により「病児保育」へのニーズが高まってきていることを踏まえ、本年度も「病児保育」の授業を開講し、25 名が認定病児保育スペシャリストとして認定された。また、保育士資格にとどまらず認定ベビーシッター資格も 60 名が取得した。

② 研究活動

教員は各自専門分野に関わる研究活動、学会参加、著作物発表を行っているが、それ以外の特記事項を以下に記す。

- ア) 紀要第 48 号（128 頁）を発行した。著者 14 名（非常勤講師 1 名、他教育機関 2 名を含む）による 10 報文である。
- イ) 2 月 14 日には研修会（研究活動報告会）を開催し、今年度に各自が行った研究について紹介し合い、相互理解を促し、今後の共同研究について話し合った。
- ウ) 文科省科学研究費については、「保育者に必要な数学力とその育成」、「運動学習における運動不振者のイメージの視点について」の 2 件が継続中である。
- エ) 短期大学における幼児教育の在り方に関して、学内 4 名の教員による継続中の共同研究の成果を、本学紀要（論文 2 報）にて発表した。
- オ) 国際学会発表 2 件を実施した。
- カ) 客員教授が「ミレー友好協会展最高賞日本支局芸術大賞」「第 102 回二科展特選」「第 23 回 BESETO 美術祭ソウル展韓国美術協会理事長賞」を受賞した。また、「第 32 回国民文化祭・なら 2017」に応援事業として「芸術と教育」を実施した。（本学学生の作品も出展）

③ 学生支援

- ア) 就職力向上、特に公務員試験突破を目指して、プログレス室で計画し実施した。特に本年度においては、就職率 100%達成と同時に、学生の公立園への関心が高まり公務員講座への希望者も 34 名、公務員合格 2 名を出した。
- イ) 学園祭やフェスティバル等、学生参加を一層推進し、実行力、発表力を養う機会となった。

④ 社会連携・地域貢献

- ア) 子育て支援事業として奈良市から受託している「つどいの広場」は、「ち

びっこ広場」と合わせて7,816名の利用があった。スタッフの対応やイベント内容についての満足度も高く、繰り返し参加する利用者が多い。「ちびっこ広場」では本学教員の講座や、ゼミ活動を通じた学生のイベント参加もあり、本学の研究や教育に大きな成果を上げることができた。

今年度も「つどいの広場」では、育児や発達、入園に向けての準備など母親の関心が高いテーマでミニ講座を行ったり、育児ストレスについての講座を登美ヶ丘公民館との共催で実施したりして、地域に開かれた広場づくりを目指した。

- イ) 公開講座は、子育て親子対象講座として「いっしょに遊ぼう」を3講座、教員・保育士対象講座として「幼児教育講座」2講座を実施した。各講座とも参加者より高い満足度が得られた。次年度も地域の要望や参加者のニーズに応えたテーマで実施する予定である。

⑤ 環境整備

- ア) 年度限定経費にて、プログレス室に「面談スペース」等のリニューアルを施し、就職指導環境の充実を図った。また、総合グラウンドの「黒土」「芝生」部分の整備と「日除けベンチ」「ネット」「散水栓」等の設備品についてもリニューアルを施し、教育効果及び安全性の向上に努めた。
- イ) 図書館は、学園大との共同利用の施設として、保有資料全体をまとめて利用できるようにしている。ノートパソコンを備え、グループ学習室もよく活用されている。資料の整備を進める一方、選書、図書展示に学生参加を図って工夫をこらすようにした。また、開館時間を延長することによっても学生にとって利用しやすい環境づくりに努めた。

⑥ めざましいクラブ活動

各クラブの活躍は、クラブ生のみならず一般の学生へも好影響を与え、大学全体に自信と活気をもたらす好要因となっている。

- ア) バスケットボール部は短期大学チームとしての活躍だけでなく、奈良学園大学との合同チームでは、関西学生リーグ1部で活躍した。
- イ) ソフトボール部は、短期大学部単独チームとしてのハンディを克服しながら昨年に引き続き、関西学生リーグ1部を堅持し、西日本インターカレッジ大会に5年連続出場し、日本インターカレッジ大会には4年連続で出場した。
- ウ) 文化部においては、書道部の大仏書道展における朝日新聞社賞受賞及び入選があった。また茶道部や吹奏楽部も活発に活動した。

(3) 奈良文化高等学校

①教育活動

- ア) Wi-Fi 環境を用いた情報機器の拡充に伴うネットワークの再構築を実施し、iPad を使った情報の授業や英語学習法など情報端末機を積極的に活用し教育効果を高めた。
- イ) 食文化コースの専門教育については、調理実習を年間 20 回実施し、プロのシェフを講師に招き特別授業も 5 回行った。また、食育指導士の指導による味噌作りやコンニャクづくり体験、酪農体験などのフィールドワークや食育に関わる出前授業を実施した。
- ウ) 衛生看護科、衛生看護専攻科においては、Web 情報等を活用し、効果的な国試等の対策を行った。看護師試験は 70 名が受験し 67 名が合格、100%の合格には至らなかったが、准看護師試験は 78 名が受験し 100%の合格率であった。
- エ) 官民協働開学留学支援制度〜トビタテ！留学 J A P A N 日本代表プログラム【高校生コース】のプロフェッショナル分野に 2 名の学生が採用決定され、7 月 27 日から 1 ヶ月間、カナダの Niagara College での看護専門研修に参加した。

②生徒等支援

- ア) 教育相談体制に関すること（スクールカウンセラー等）
 - ・毎週 5 回、2 名のスクールカウンセラーが交互に来校して、生徒・保護者は勿論、教員にもさまざまな悩みについてカウンセリングを行っている。
- イ) 高等学校生徒就学支援に関すること
 - ・家計急変により就学の継続が困難となった場合の支援については、学園就学支援規程に基づく支援体制がある。
- ウ) 生徒等に対する表彰等
 - ・新体操部、バスケットボール部、ソフトボール部、少林寺拳法部がそれぞれ全国大会に出場し活躍した。バスケットボール部は国民体育大会 3 位入賞、新体操部においては、インターハイ団体 5 位入賞、個人では関西ジュニアボウリング選手権大会シングル戦に優勝を果たした生徒が奈良学園栄誉賞を受賞した。
 - ・スポーツで優秀な成績を収めた 11 名に奈良文化栄誉賞が贈られた。

③社会連携・地域貢献

- ・全校生徒による通学路周辺の清掃活動を実施した。
- ・第 26 回奈良県産業教育フェアや近鉄百貨店橿原店での「夏休みこども博」に衛生看護科が参加し、作品展示や実演コーナーとして血圧測定と体脂肪測定を実施した。
- ・「がん検診を受けよう！奈良県民会議」街頭啓発活動に衛生看護専攻科が参加し、県民への呼び掛けと啓発グッズの配布を行なった。
- ・奈良県大芸術祭の一環として、藤原京跡を会場に二日間にわたって開催さ

れた 「万葉浪漫」の運営ボランティアスタッフとして本校生が多数参加した。

- ・奈良燈花会ファッションショーにモデルや撮影・照明スタッフとして、本校生徒が多数参加した。
- ・當麻寺周辺を中心に開催された『ゆめフェスタ in 葛城』に茶道部と食文化コース生が参加し、地域との連携を深めた。
- ・葛城市寺口地区と協力し収穫した桑の葉を「桑姫作業所」にて粉末加工し、桑粉を使った菓子作りを通して地域との連携を行った。
- ・寺口ファームとの地域連携で誕生した本校生徒の「桑姫」達が葛城市や大和高田市の各イベント会場において桑パン・桑茶の販売を行った。
- ・地域の活性化への参画を目的に、株式会社道の駅葛城と産学連携協定を締結し、フォレストカフェでは職業体験を実施した。
- ・奈良県有形文化財指定記念として、市民文化講座「奈良文化のみなもと 竹内遺跡出土資料」を開催した。

④環境整備

- ・施設整備については、校舎、寮のセキュリティーを含め、設備の維持管理に努めている。本年度、高校体育館に空調設備を新たに導入したことにより、利用者数も増え、地域の方からも好評を得た。
- ・キャンパス内の環境整備については、本年度も卒業生が遊歩道「万葉の小径」に卒業記念植樹をし、万葉集などに詠まれた草花が径沿いに次々に植えられて来ている。
- ・合宿研修については、4月にスポーツ特進コースの生徒を対象にリーダーズ研修を本年度も実施した。また多くのクラブで長期休暇等を利用した合宿を行い実力養成に効果を上げた。さらに、8月と3月には平成29年度も特進コースの生徒を中心に「勉強合宿」を実施し、受験に備え「自学自習」の習慣と効果的な学習法を身に付けることができた。

⑤生徒等募集

- ・受験生や保護者に本校のメリットを訴求できるよう工夫をこらした、生徒が参画した「学校案内」を作成した。また、別冊（インフォメーションブック）では食育、進路、学費等の内容を詳細に紹介し、広範囲に持参または送付し、親切丁寧な募集活動を実施した。
- ・本年度も近畿各府県の広域地域にも広報活動を展開した。また、受験地域も広がりを見せ、認知度も浸透してきた。

(4) 奈良学園中学校・高等学校

① 教育活動

ア) SSH(スーパーサイエンス・ハイスクール)事業

平成28年度で本校としては第1期のSSH指定期間が終了したが、平成29年度は文部科学省からSSH経過措置校に指定された。学外の大学等でのサイエンス研修、大学の先生等に来校していただいたのSS出前講義、SS公開講座、ベトナムの高校・大学とのサイエンス交流、国内研修、理科課題研究などを実施し、2月には公开发表会を開催した。ベトナムでの研修には、高2のSS発展コース生(12名)全員が参加した。

また、SS研究チームが日本地質学会高校生ポスター発表で「優秀賞」を、日本進化学会高校生ポスター発表では「奨励賞」を受賞し、さらに、学校として全国学校ビオトープコンクール 2017 において日本生態系協会賞を受賞した。

なお、平成30年度からの第2期SSHの申請を行った結果、採択された。

イ) 中学校卒業論文

自ら課題を発見する力や思考力、表現力を培うことを目標に、中学3年生一人一人が1年間かけて卒業論文を作成している。中高の全教員が1人当たり生徒3名程度を担当して助言等を行いながら生徒の論文作成をサポートしている。

ウ) 進路指導

国公立大の医学部(医)には、現浪合わせて17名、歯学部1名、獣医学部に3名が合格。私立大医学部(医)には31名、歯学部6名が合格した。また、京大へ10名、阪大へ13名、神大へ16名が合格した。

エ) 国際交流

国際理解教育として、高校1年生の希望者38名がオーストラリアでの海外短期研修プログラムに参加した。夏期休暇中の二週間、アデレード近郊の学校での研修、ホームステイなど異文化体験と英語研修をする良き機会となった。

② 生徒等支援

ア) 日常的には担任が懇切に指導し、生徒をサポートしている。スクールカウンセラー(臨床心理士)は、毎週水曜日に全日、学校で生徒、保護者のカウンセリングに当たっており、信頼されている。

家計急変の高校生に対しては、授業料免除の制度もある。

③ 社会連携・地域貢献

ア) 地域との連携として、市民向け公開講座「奈良学塾」を2回実施した。1回目は、7月に小学生と保護者を招待し、里山での昆虫採取等の研修、2回目は2月に、化学実験講座を実施した。

また、生徒会が中心となり、通学路の清掃活動を行っており、地域から好

評を得ている。

④ 環境整備

ア) 校地内の里山を年次計画で整備してきた。施設設備については、校舎が8年前に新築され、完備した状態である。第一体育館(2階建て、空調完備)、第二体育館、青雲館(武道場、卓球場)、テニスコート(5面)、人工芝のサッカー場、グラウンドがあり、教育環境は充実している。

⑤ 生徒募集

ア) 学校説明会の実施、学校外での説明会への参加、塾等への訪問活動などを精力的に実施した。

中学は、160名定員に対して志願者がのべ769名(昨年774名)で、153名入学し、適切な人数に収まった。

一方、高校は、40名定員に対して志願者は昨年と同数の416名であったが、入学者は20名となった。合格者数をやや絞ったこと、本校と併願が多い奈良県立高校の入試競争倍率が低かったことが要因として考えられ、課題の残る結果となった。

(5) 奈良学園幼稚園・小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校

① 教育活動

ア) 幼稚園では、「2歳児保育『いちご組』」を継続した。広報イベントの「2歳児わくわくルーム」という体験教室がこの入会者、さらには幼稚園への入園者につながっている。園全体で取り組んでいるマーチング活動については、昨年に続いて園内外での発表活動を行った。園児の体力向上を図るため、従来のスポーツ教室や水泳教室、サッカー教室、さらに体育指導教員による「うきうきタイム(朝の10分間体育遊び)」を継続した。預かり保育では、昨年度同様、夏期・冬期・春期休業中において実施した。

イ) 小学校では、理科の天体観測会(4~6年)、国語・社会のモンゴル体験教室(2年)、吉野紙漉き(4年)・春日大社宮司(3年)による地域の方の講演、各学年での宿泊学習等の体験学習も順調に実施することができた。また、企業と連携したサイエンス教室(三菱電機・関西電機保安協会等)やプログラミング教育に取り組むことができた。

ウ) 中高では、高校各学年での長期休暇中の充実講座(補習・補講)、高2及び高1宿泊セミナーを実施した。また、各学年の宿泊研修、第6回目となる高2オーストラリア語学研修を実施した。国際交流活動については、6月に中国の華東師範大附属中学国際科生徒の訪問、9月には教育連携協定

を結んだオーストラリアからの生徒との交流活動及び生徒の家庭でのホームステイを実施した。2月には中高生対象の「登美ヶ丘講演」を実施し、奈良県選出の衆議院議員を招いて国会議員の仕事についての講演を聴いた。

エ) 安全教育については、例年通り1学期に校種単位での防犯教室（奈良西警察署）、7月に幼小中高合同火災避難訓練（奈良西消防署）、6月と7月に教員対象 AED 救命救急講習、1月に合同地震避難訓練など、災害等に対する安全管理についての研修や訓練を実施した。

② 生徒等支援

ア) 週2回のスクールカウンセラーを配置し、教員との相談及び打ち合わせや、保護者や生徒との定期的な相談を行った。加えて、小学校において、臨床心理士を招いての児童の実態把握やカウンセリングを実施した。

③ 社会連携・地域貢献

ア) 毎年の恒例行事として、10月に全校生及び保護者合同の「第9回ふれあい清掃」（地域清掃）を実施した。

イ) 年間を通じて、本校正門前での登校指導を行い、地域の小中学生や高校生の通学の安全について、地域の方と協力しながら取り組んだ。

④ 環境整備

ア) 平成22年9月に整備した総合グラウンドは、経年劣化により各所に形状の変化・傷み等が見られたため、専門業者による大規模メンテナンスを行った。サッカーグラウンド芝生、野球場黒土・マウンド、陸上競技用タータントラックが改善し教育環境の維持に取り組んだ。

イ) 幼稚園園庭、Pグラウンド及びMYグラウンドに設置している遊具について、専門業者による安全点検を実施し、安心安全な教育環境の維持に取り組んだ。

ウ) Pフロア及びMフロアのフリースペースに設置しているタイルカーペットを更新し、清潔な教育環境の維持に取り組んだ。

⑤ 特色ある教育活動

ア) 本校の教育内容の特色である「15年（12年）一貫教育システム」の流れを示した「3+4-4-4ルートマップ」及び「各学年シラバス」を完成させ、保護者に提示した。

イ) 1学期にはP（小1～4）・M（小5～中2）・Y（中3～高4）別の体育的行事、2学期にはM・Y尚志祭（文化祭）、幼小中高合同運動会、PP運動会（P1

生参加)、3 学期には PP・P 尚志祭(学習発表会)など、年間を通じて異学
齢交流活動に取り組んだ。

ウ) 国際交流活動として、小 6 のハワイ宿泊学習(5 月)、高 2 のオーストラリ
ア語学研修(6 月)などの宿泊行事のほか、6 月に中国の華東師範大附属
中学国際科生徒の訪問(高校)、8 月に幼稚園教員が中国南京市幼稚園に訪
問、9 月にオーストラリアの連携校生徒のホームステイ受入、2 月に小学
校で帰国子女の一時受け入れなどを行った。

エ) キャリア教育として、小学校での地域の方々による講演会のほか、中 3(Y1)
で 9 月にキャリアリサーチ(企業研究所訪問)、2 月に保護者によるキャリ
アトーク講座(職業紹介)を実施した。

⑥ 生徒等募集

ア) 幼稚園においては、体験入園や園庭開放に加えて、「2 歳児わくわくルーム」
「2 歳児保育」など、園内での活動を積極的に行うとともに、子育てサー
クルへの出前保育など園外での活動を充実させた。平成 30 年度の入園生
は、年少 41 名(募集定員 40 名)であった。

イ) 小学校においては、例年通り校内での見学会、体験授業、テスト体験会を
実施した。また、校外においても幼児教室主催による相談会や講演会に多
数参加した。入試については 10 月の A 日程入試に加えて、2 月に B 日程入
試を実施し、入学者の獲得を図った。平成 30 年度の入学者は内部進学者
27 名、外部入学者 34 名、合計 61 名(募集定員 90 名)であった。

ウ) 中学校においては、11 月にプレテストを導入した。入試においては、A 日
程、B 日程(午後入試)、C 日程の 3 回を実施した。英検資格者への加点、
1 回の受験料での複数受験、Web による出願・発表などの工夫も行った。
プレテストの効果があり、受験者は前年を上回った。平成 30 年度の入学
者は 154 名(募集定員 160 名)であった。

エ) ホームページにおいて学校発信のブログに取り組み、SNS を利用して広く
学校の活動内容を伝える取り組みを行った。

(6) 奈良文化幼稚園

① 教育活動

ア) 「わんぱくの森プロジェクト」推進と同時にそこで育っている力を教職員
ひとり一人が自分の言葉で語ることができるように、子ども理解を深める努
力をした。

- イ) 子どもにとっての豊かな外遊び環境を整え、裸足での活動機会の増加、ゆとりある遊び時間の確保を行い、体力の向上を目指した。また、自然素材を取り入れて遊びを展開できるように、環境を整えた。
- ウ) 「わんぱくの森」での子どもの遊びを発信し、保護者の理解を深めた。と同時に教職員と保護者の協働体制を築き、共に子ども達の遊び場をつくる機会を設けた。
- エ) 新しいチーム保育のあり方を試み、保育の自由度が増した。また、教員間も刺激を受け合い、また個性を活かした保育ができ、教員の意欲につながる取り組みとなった。
- オ) 多くの世代層とのふれあい（大学生・高校生・中学生・地域の方々等）を通して、人とのつながり、温かさを感じる機会が増えた。

②研究活動

- ア) 外遊びの充実を目指して園庭整備を行っている先進園での研修ならびに指導者を招いての園内研修会を行い、「わんぱくの森プロジェクト」に活かした。整備内容の吟味、教員の意識改革を行った。
- イ) 「わんぱくの森」での遊びの効果測定として体力測定を行った。また、足指測定器で足指の力を測り、足型スタンプによる土踏まず形成の経過観察も行った。

③環境整備

- ア) 「わんぱくの森」第Ⅲ期園庭整備が進み、園庭中央部分に活動的なターザンケープルやトランポリン、ゴーカートコースができ、またシンボリックな「くすのきすべりだい」が完成した。遊びの目的に合わせて、遊び場をエリアに分けて整理した。
- イ) 高さ7mのくすのきの移植を始め、低木で垣根を作ったり、中庭にカシワを植栽したり、子ども達の生活の中に緑を積極的に増やした。また、手作りプランターに野菜を植え食する機会や田んぼを園庭につくり餅米収穫からおもちつきまでの活動等を展開し、子ども達にとって自然や土に触れる機会を多く持ち、「優しい環境」づくりを進めた。

④募園児集

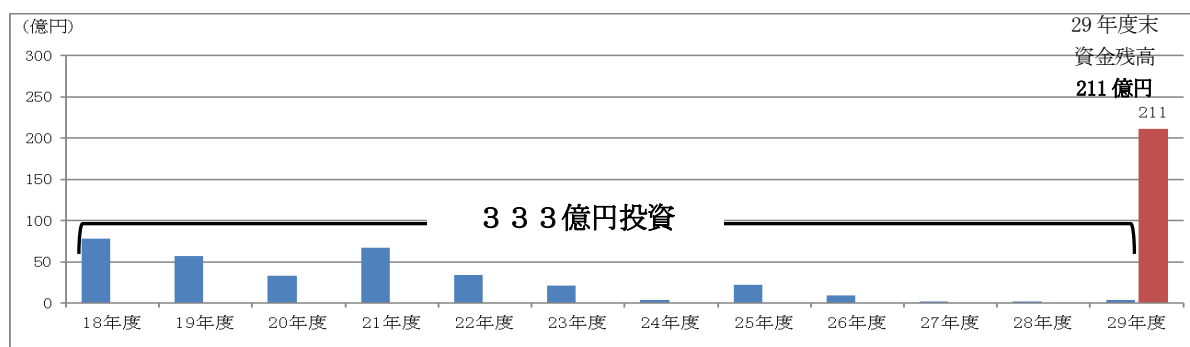
- ア) 前日から並んで願書受付に臨んでくださったご家庭が本年度も多くあった。おかげさまで、募集定員を上回る人数を確保できた。

IV. 財務の概要

1. 最近の投資と財務の状況

奈良学園では、各キャンパスの施設設備に対して、平成 18 年度から平成 24 年度にかけて大規模な投資を行った。その結果、学園内に耐震上問題となる建物はなくなり、施設設備面における競争力が強化された。平成 25～26 年度においても、三郷・登美ヶ丘両キャンパスの大学学部新設に伴う整備事業に取り組み、さらに充実した教育環境が整った。

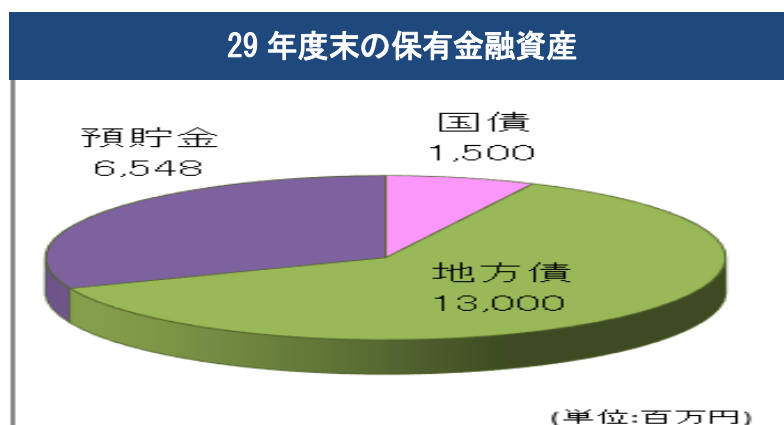
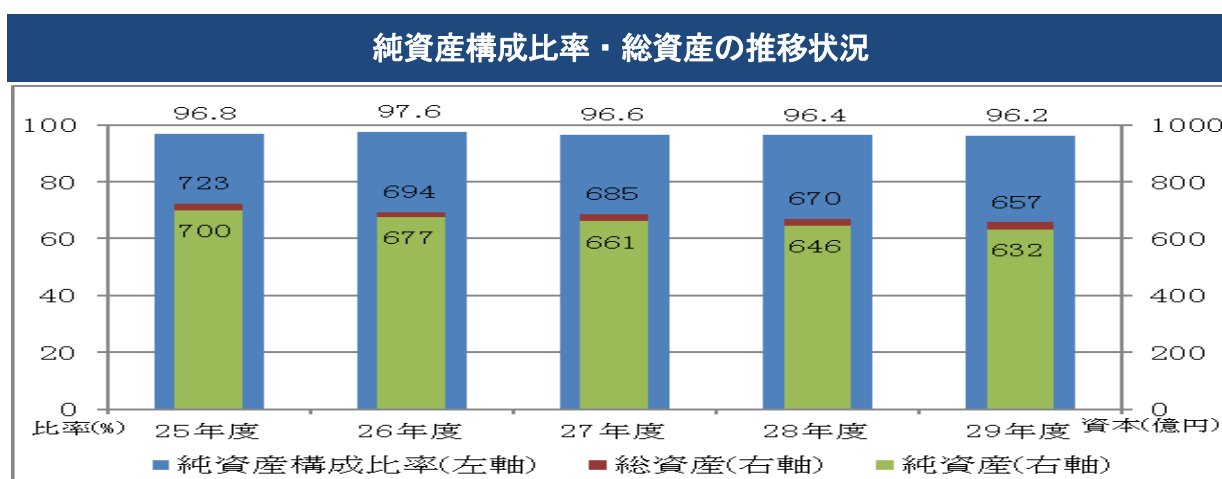
下表は、平成 18 年度から 29 年度までの投資実績をグラフ化したものである。これらの開発資金を全て自己資金で賄ったうえで、29 年度末時点においてなお、充実した資金残高を保有している。



また、財務指標をみると、奈良学園の純資産構成比率は極めて高く、学校法人としての純資産の充実ぶりを示している。

奈良学園のスケールを示す総資産は、奈良県下大学法人の中で最上位の地位にある。

下表は、24 年度以降の純資産構成比率、総資産の推移状況及び 29 年度末の保有金融資産を示したものである。



2. 平成 29 年度決算の概要

(1) 資金収支計算書の概要

資金収入は、学生生徒等納付金収入、手数料収入、補助金収入等の収入で、8,748 百万円となりました。資金支出は、人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出および施設・設備関係支出等の支出で、7,624 百万円となりました。
この結果、前年度繰越支払資金に差額 1,123 百万円を加え、翌年度繰越支払資金は、6,548 百万円となりました。

平成 29 年度 資金収支計算書

(平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,352,001,000	3,309,051,539	42,949,461
手数料収入	62,137,000	60,501,514	1,635,486
寄付金収入	1,993,000	2,833,220	△840,220
補助金収入	1,325,978,000	1,328,746,871	△2,768,871
国庫補助金収入	313,887,000	256,143,000	57,744,000
地方公共団体補助金収入	1,012,091,000	1,072,603,871	△60,512,871
資産売却収入	1,500,000,000	1,500,000,000	0
付随事業・収益事業収入	106,911,000	102,281,170	4,629,830
受取利息・配当金収入	136,932,000	136,904,923	27,077
雑収入	133,556,000	158,453,377	△24,897,377
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	384,740,000	425,725,478	△40,985,478
その他の収入	2,384,317,000	2,330,887,078	53,429,922
資金収入調整勘定	△773,207,000	△603,873,617	△166,333,383
収入の部小計	8,615,358,000	8,748,511,553	△133,153,553
前年度繰越支払資金	5,425,216,667	5,425,216,667	
収入の部合計	14,040,574,667	14,173,728,220	△133,153,553

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,916,559,000	3,738,983,513	177,575,487
教育研究経費支出	1,094,179,000	1,049,615,216	44,563,784
管理経費支出	616,706,000	517,696,699	99,009,301
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	471,590,000	325,467,153	146,122,847
設備関係支出	365,459,000	218,241,526	147,217,474
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	2,313,189,000	2,406,867,168	△93,678,168
[予備費]	(0) 20,000,000		20,000,000
資金支出調整勘定	△279,721,000	△632,065,717	352,344,717
支出の部小計	8,517,961,000	7,624,805,558	893,155,442
翌年度繰越支払資金	5,522,613,667	6,548,922,662	△1,026,308,995
支出の部合計	14,040,574,667	14,173,728,220	△133,153,553

(2) 活動区分資金収支計算書の概要

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書を活動区分ごとに「教育活動」、「施設設備等活動」、「その他の活動」の3つの区分に分割したものです。各区分別の資金収支差額は、次のとおりです。(1) 教育活動による資金収支差額は△407百万円、(2) 施設設備等活動による資金収支差額は△99百万円、(3) その他の活動による資金収支差額は1,630百万円となり、合計で1,124百万円となりました。

平成29年度 活動区分資金収支計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：円)

	科 目		金額		科目		金額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	3,309,051,539	その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却	1,500,000,000
		手数料収入	60,501,514			預り金受入収入	1,796,947,997
		特別寄付金収入	1,434,220			貯蔵品売却収入	4,412,767
		経常費等補助金収入	1,328,746,871			仮払金受入収入	32,594,943
		付随事業収入	102,281,170			立替金受入収入	5,408,508
		雑収入	158,153,829			小計	3,339,364,215
		教育活動資金収入計	4,960,169,143			受取利息・配当金収入	136,904,923
	支出	人件費支出	3,738,983,513			過年度修正収入	299,548
		教育研究経費支出	1,049,615,216			その他の活動資金収入計	3,476,568,686
		管理経費支出	517,582,564		支出	預り金支払支出	1,803,404,355
		教育活動資金支出計	5,306,181,293			貯蔵品支払支出	5,211,567
	差 引		△346,012,150			仮払金支払支出	32,639,766
	調整勘定等		△61,392,408			立替金支払支出	2,941,073
	教育活動資金収支差額		△407,404,558			小計	1,844,196,761
			過年度修正支出	114,135			
			その他の活動資金支出計	1,844,310,896			
	科 目		金額				
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	1,399,000	差引		1,632,257,790	
		施設設備補助金収入	0	調整勘定等		△1,359,424	
		第2号基本金引当特定資産増額収入	260,269,811	その他の活動資金収支差額		1,630,898,366	
		施設整備等活動資金収入計	261,668,811	支払資金の総減額（小計＋その他の活動資金収支差額）		1,123,705,995	
	支出	施設関係支出	325,467,153	前年度繰越支払資金		5,425,216,667	
		設備関係支出	218,241,526	翌年度繰越支払資金		6,548,922,662	
		施設整備等活動資金支出計	543,708,679				
	差引		△282,039,868				
	調整勘定等		182,252,055				
	施設整備等活動資金収支差額		△99,787,813				
	小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）		△507,192,371				

(3) 事業活動収支計算書の概要

教育活動収支差額は△1,413百万円、教育活動外収支差額は136百万円、特別収支差額は△43百万円となりました。これにより、基本金組入前当年度収支差額は△1,320百万円の支出超過となりました。また、基本金組入額が△202百万円となりましたので、当年度収支差額1,523百万円の支出超過となりました。

平成29年度 事業活動収支計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：円)

科 目		予 算	決 算	差 異
経常 収支	学生生徒等納付金	3,352,001,000	3,309,051,539	42,949,461
	手数料	62,137,000	60,501,514	1,635,486
	寄付金	0	1,434,220	△1,434,220
	経常費等補助金	1,325,978,000	1,328,746,871	△2,768,871
	国庫補助金	313,887,000	256,143,000	57,744,000
	地方公共団体補助金	1,012,091,000	1,072,603,871	△60,512,871
	付随事業収入	106,911,000	102,281,170	4,629,830
	雑収入	73,858,000	96,879,932	△23,021,932
	教育活動収入計	4,920,885,000	4,898,895,246	21,989,754
	人件費	3,957,726,000	3,717,064,903	240,661,097
	教育研究経費	2,064,183,000	2,000,389,712	63,793,288
	管理経費	693,386,000	594,103,994	99,282,006
	徴収不能額等	51,000	1,259,950	△1,208,950
	教育活動支出計	6,715,346,000	6,312,818,559	402,527,441
	教育活動収支差額	△1,794,461,000	△1,413,923,313	△380,537,687
	教育活動外収入計	136,932,000	136,904,923	27,077
	教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	136,932,000	136,904,923	27,077
	経常収支差額	△1,657,529,000	△1,277,018,390	△380,510,610
特別 収支	特別収入計	1,993,000	7,140,848	△5,147,848
	特別支出計	99,556,000	50,693,398	48,862,602
	特別収支差額	△97,563,000	△43,552,550	△54,010,450
〔予備費〕		(0) 20,000,000		20,000,000
基本金組入前当年度収支差額		△1,775,092,000	△1,320,570,940	△454,521,060
基本金組入額合計		△650,775,000	△202,672,204	△448,102,796
当年度収支差額		△2,425,867,000	△1,523,243,144	△902,623,856
前年度繰越収支差額		△3,519,465,990	△3,519,465,990	0
基本金取崩額		11,517,000	213,709,307	△202,192,307
翌年度繰越収支差額		△5,933,815,990	△4,828,999,827	△1,104,816,163
(参考)				
事業活動収入計		5,059,810,000	5,042,941,017	16,868,983
事業活動支出計		6,814,902,000	6,363,511,957	451,390,043

(4) 貸借対照表の概要

当年度末の資産の部合計は、65,788 百万円となり、前年度末に比べ 1,245 百万円の減少となりました。土地、建物、有価証券等の固定資産は、58,056 百万円となり、前年度比 1,789 百万円の減少となりましたが、現金預金等の流動資産は 7,731 百万円となり、前年度比 543 百万円の増加となりました。負債および純資産では、負債の部合計 2,492 百万円で前年度末に比べ 75 百万円増加しました。また、純資産の部合計は、63,296 百万円となり、前年度末に比べ 1,320 百万円減少しました。

平成 29 年度 貸借対照表
(平成 30 年 3 月 31 日)

(単位：円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	58,056,517,565	59,845,601,586	△1,789,084,021
有形固定資産	44,480,056,235	45,007,667,155	△527,610,920
土地	22,500,690,451	22,500,690,451	0
建物	18,544,195,758	18,927,571,778	△383,376,020
その他の有形固定資産	3,435,170,026	3,579,404,926	△144,234,900
特定資産	11,060,000,000	11,320,269,811	△260,269,811
その他の固定資産	2,516,461,330	3,517,664,620	△1,001,203,290
流動資産	7,731,769,447	7,188,130,166	543,639,281
現金預金	6,548,922,662	5,425,216,667	1,123,705,995
その他の流動資産	1,182,846,785	1,762,913,499	△580,066,714
資産の部合計	65,788,287,012	67,033,731,752	△1,245,444,740
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	1,037,453,240	998,097,953	39,355,287
長期借入金	0	0	0
その他の固定負債	1,037,453,240	998,097,953	39,355,287
流動負債	1,454,669,926	1,418,899,013	35,770,913
短期借入金	0	0	0
その他の流動負債	1,454,669,926	1,418,899,013	35,770,913
負債の部合計	2,492,123,166	2,416,996,966	75,126,200
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第 1 号基本金	56,700,754,764	56,451,522,056	249,232,708
第 2 号基本金	0	260,269,811	△260,269,811
第 3 号基本金	11,000,000,000	11,000,000,000	0
第 4 号基本金	424,408,909	424,408,909	0
翌年度繰越収支差額	△4,828,999,827	△3,519,465,990	△1,309,533,837
純資産の部合計	63,296,163,846	64,616,734,786	△1,320,570,940
負債の部、純資産の部合計			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、純資産の部合計	65,788,287,012	67,033,731,752	△1,245,444,740

(5) 平成29年度 財産目録(概要)

財 産 目 録

I 資産総額	65,788,287,012 円
内 基本財産	44,480,056,235 円
運用財産	21,308,230,777 円
収益事業用財産	0 円
II 負債総額	2,492,123,166 円
III 純資産	63,296,163,846 円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	476,041.17 m ² 22,500,690,451 円
建物	123,375.82 m ² 18,544,195,758 円
図書	404,781 冊 4,279 点 1,277,153,621 円
教具・校具・備品	29,670 点 824,145,765 円
その他	1,333,870,640 円
2 運用財産	
現金預金	6,548,922,662 円
その他	14,759,308,115 円
3 収益事業用財産	0 円
資 産 総 額	65,788,287,012 円
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	0 円
その他	1,037,453,240 円
2 流動負債	
短期借入金	0 円
その他	1,454,699,926 円
負 債 総 額	2,492,123,166 円
純資産(資産総額－負債総額)	63,296,163,846 円

(6) 監査報告書

監査報告書

平成 30 年 5 月 21 日

学校法人奈良学園

理 事 会 御中

評 議 員 会 御中

学校法人奈良学園

常勤監事 松田親典 

監 事 村田智之 

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項に基づく監査報告を行うため、学校法人奈良学園の寄附行為第 10 条の規定に従い、学校法人奈良学園の平成 29 年度(平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)の、学校法人の業務及び財産の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会に出席するほか、理事等から業務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、会計監査人と連携して学校法人の業務及び財産の状況を監査した。

監査の結果、学校法人の業務及び財産に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はなく、計算書類は平成 29 年度の収支の状況及び平成 29 年度末の財産の状況を適正に表示しているものと認める。

以上